

レッスン09 個人マネーの動きと各金融機関の販売戦略（NISA）

（１） NISA（ニーサ）：日本版 ISA

- ☒ 既存の顧客を防衛（睡眠口座も含む）
- ☒ 潜在投資家の掘り起こし
- ☒ 非課税口座から一般口座へ裾野を広げる

※詳細はレッスン 17 参照

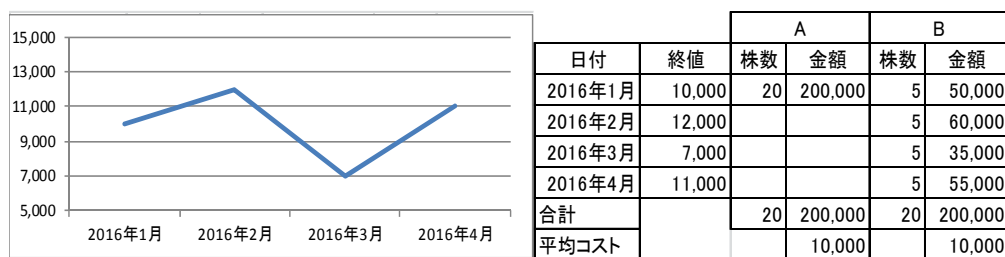
（２） 積立投資のメリット（ドル・コスト平均法）

積立投資のメリットは時間分散できること。

相場環境が良いときも悪いときも、一定金額を投資し続けることで、一定の口数を買いつけるよりも平均買付単価を低く抑えることができる。この投資手法は「ドル・コスト平均法」と呼ばれている。

- ・ 基準価額が高いとき：少ない口数を購入
 - ・ 基準価額が低いとき：多くの口数を購入
- ⇒ 購入単価を平準化することが可能。

「まとめて購入」と「毎月購入」の違い



※「ドル・コスト平均法」の説明のための仮定のものであり、実際の投資成果を約束するものではない。

1. Aさんのケース：「まとめて購入」

Aさんは、ある年の1月にまとめて20万円この銘柄を購入。

1万口あたりの基準価額が10,000円の時だったので、ちょうど200,000口となった。

その後、基準価額は上がったり下がったりした。

4月になり、Aさんは「3月の7,000円の時に購入していれば」と思った。

2. Bさんのケース：「毎月購入」

Bさんは、毎月一定の日に5万円ずつ購入した。

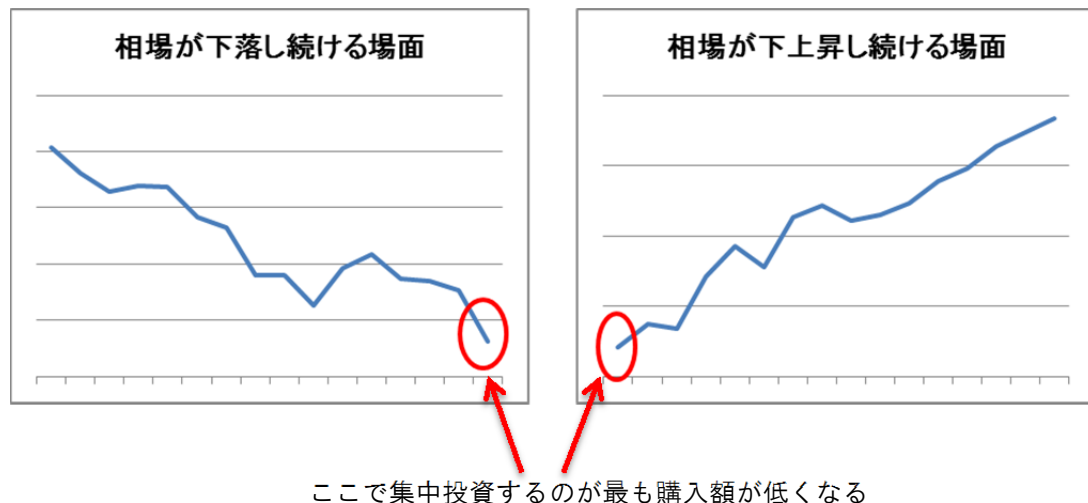
価格が高い時には口数を少なく、安い時には多く購入することができた。

4か月間ではAさんと同額の20万円を投資したが、トータルで208,551口購入できたことになる。

(1万口あたりの平均購入価格：9,590円)。

「ドル・コスト平均法」は、定期的に一定額ずつ購入することで、高値買いを回避して購入価格を平均化することができる有効な投資テクニックである。

相場が右肩下がりで下落し続ける局面や、右肩上がりで上昇し続ける場合は、底値でスポット購入する方が、平均購入額は低くなる。



レッスン20 ライフイベントと投資の必要性

(1) ライフイベントと資金

1. ライフイベント

結婚～出産～育児～受験

子どもの独立～子供の婚姻～孫の誕生

事業継承または退職～終活

→ 経済的な責任は徐々に減少。

自分のための時間・必要性が増加。

2. 長生きに伴うリスク（年金と介護）

医学の進歩により平均寿命は上昇傾向に。

少子化の影響や高齢者層の増加により、

年金の支給額は減少傾向に。

高齢化に伴い、年々介護の負担・重要性が増加。

→ 若年世代に負担が増加。子に過度な期待をしないと割り切る必要が。

3. 生活資金の確保

年金で賄いきれず、自己で資金を確保する必要性が増加。

銀行など預金での運用は、元本を食いつぶすことに

⇒計画的に資金を確保することが重要。投資等で自己資金を増加・確保することが必然に。

(2) 運用手段を総合的にアドバイス

・お客様のライフイベント

様々であり、多くの場合は、1つではなく複数ある。

・リスク許容度

運用目的、お客様の属性（年齢、収入、保有財産、就業状況など）

総合的に判断を。